

昨年、札幌麻生脳神経外科病院の飛驒一利先生にご推薦いただき、編集委員へ加えていただいた。はじめて編集委員会へ参加した際、エキスパートの先生方が知識や情報を出し合い、さまざまなテーマを深掘りできるような企画をつくっていくのを目の当たりにした。Web会議であったが、準備不足であった私は、息を潜めて、編集委員長の松山幸弘先生と目があわないように過ごしていた。60歳を目の前に、少し気楽に生きようと思っていた自分を反省し、もっと勉強しなければと、自責の念にかられた貴重な時間であった。

さて、今回の特集は筑田博隆先生の企画による「脊椎腫瘍の治療戦略」である。難しい、多様な脊椎腫瘍について、エキスパートの先生方に解説いただいた。ところどころに、経験豊富な執筆者の先生方の診断や治療におけるコツが散りばめられ、臨床家にとって非常にわかりやすい内容になっている。すべて自分で治療できるかはさておき、みつけること、見逃さないことは自分の身を守るためにもとても大事になってくる。CTやMRIで目をこらしてみつけられるものもあれば、多発性骨髄腫や腫瘍性骨軟化症のように知識がないと見落としてしまうものもあり、あらためて日頃の知識のアップデートの大切さを感じる。

先日、(原発性骨リンパ腫ではなく)悪性リンパ腫の骨転移の症例を経験した。「あまり経験しないな」と思っていたが、本特集によると、悪性リンパ腫は脊椎硬膜外腫瘍の約1割を占め、まれではないことが記されている。また、最近、多発性骨髄腫の患者さんを外来でみつめる頻度が増えた気がしていたが、本特集によると、近年、多発性骨髄腫は罹患率が増加しており、80代がピークとされている。超高齢者の椎体骨折でたびたびみつかるとのわけである。

編集後記を書いている1月は例年、今年目標達成を占う大事な月である。毎年掲げるスポーツジム通いについては、すでに昨年を超え順調な滑り出しである(昨年は1月の3回のみ、今年はすでに5回)。昨年の反省を踏まえた知識のアップデートについても、本誌39巻1号「AI時代の脊椎脊髄画像診断」はその面白さも手伝って、すでに完読済みである。60歳を前に、知識と体力を増やせる1年にすべく、本誌を大いに役立てていきたい。

(金 景成)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘(編集委員長)
高見俊宏(副編集委員長)
熱田直樹 亀山 隆 金 景成
黒川勝己 下川宣幸 高橋敏行
筑田博隆 永島英樹 中西一義
中村雅也 西田康太郎 原 政人
堀 正明

Vol. 39 No. 3
(2026年3月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価(本体2,700円+税)
(配送料別)

年ぎめ予約購読料36,100円+税
送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当:西本・山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2026,

Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。